

「廣田弘毅先生生誕之地」

# 碑石守って30年

## 敷地提供した松尾敏朗さん



### 館 報

発行 社団法人 玄洋社記念館  
郵便番号 810-0073  
福岡市中央区舞鶴二丁目4番24号  
電話 (092) 771-3203  
FAX (092) 771-1326

## 来店客も関心示す

福岡市中央区天神三丁目16-10（旧、鍛冶町）の「廣田弘毅先生生誕之地」の碑は、昭和五十三年十一月、元福岡市長で玄洋社記念館の創設者、進藤一馬先生によって建立された。今年、建立三十周年を迎える。碑に敷地



「廣田弘毅先生生誕之地」の碑と松尾さん。「建立から三十年になりますかね」と感慨深げ

### 玄洋社憲則

- 第一条 皇室ヲ敬戴ス可シ
- 第二条 本國ヲ愛重ス可シ
- 第三条 人民ノ権利ヲ固守ス可シ

### 今号の主な内容

- ▽ 秋季恒例の3行事斎行 2、3面
- ▽ 今年は記念館、諸先覚の節目の年 3面
- ▽ 来館者、多彩に 4面
- ▽ 地震被災でも玄界島・2烈士の墓の供養続ける上田さん 5面

の一角を提供している飲食店「しおや」の経営者、松尾敏朗さん（70）は建立の時を懐かしみ、世相の変遷を振り返る。（3面に関連記事）

生誕之地の碑は、昭和通りから紳士服店「フタタ」の裏の小路を北に進んだ所の「しおや」の玄関脇にある。高さ約一・五メートル、幅約二十センチ、厚さ約十五センチの御影石製。正面に「廣田弘毅先生生誕之地」、右側面に「生誕百年・三十回忌記念・昭和五十三年十一月建立」、左側面に「出光左三書」と記されている。

出光佐三氏（明治十八年八月二十二日―昭和五十六年三月七日）は、出光興産の創業者。進藤先生の強力な支援者だった。

廣田先生は明治十一年二月十四日、徳平、タケ夫婦の長男として生まれた。徳平は、石工で、ひと月に三十五日分も働くといわれるほどの働き者だった。廣田先生は幼名を丈太郎

廣田先生の色紙と松尾さん



「店に来ると、お酒の最初一杯を碑石にかけるとお客さんがいます」と松尾さん。廣田先生の「風車 風の吹く迄 昼寝哉」の色紙を持つてきてくれたお客もいる。「私も、人に尋ねられたとき説明できるように城山三郎の『落日燃ゆ』を読んだりして勉強しています」と松尾さんはいふ。

松尾さんは、オイルショックの年、昭和四十八年に店を開いた。天神とはいえず、周囲にはまだ島があった。天神横町という飲食店街があり、そこまで人通りは多かったが、松尾さんの店は、その少し先だった。店を開いて五年目の昭和五十三年のある日、進藤先生の使いの人が訪れ「店の前に碑を建てさせてほしい」と依頼した。ちょうどクーラーの大きな冷却器が据わっているスペースがなかったので断った。しばらくしてクーラーを新しくしたのでスペースができた。松尾さんは「碑を建てていただいて結構です」と進藤先生のもとに連絡した。碑はこうして建立された。

建立に際しては、松尾さんも金二万円を協賛した。碑建立から三十年。時は流れた。「係長で来ていたお客さんが、課長になり部長になりですからね。その半面、会社で相当な地位の人にも吉田茂を知らない人がいる時代になりました」と松尾さんは残念そう。

「しおや」は「どじょう汁」が自慢の店。店に特徴を出すため、よそにない料理をと考えてメニューに加えた。のれんには「どじょう汁」と染め抜いてある。福岡でどじょう汁を出す店はここだけのようだ。かつて店の前のビルに参議院議員の故柳田桃太郎先生の事務所があったところ、柳田先生がどじょう汁で晩ご飯を食べによく来ていたそうだ。

「郷土史研究グループが熱心に説明を聞いているのを横で聴いていると楽しいですよ」。松尾さんは、これからも「しおや」とともに廣田先生の遺徳を傳承し続けてくれる。



# 秋季恒例の先覚慰霊・顕彰祭

## 多数の参加で滞りなく斎行

### 偉業の継承を誓う



中野先生の銅像前で行われた神事

#### 中野正剛先生 顕彰祭

福岡が生んだ憂国の政治家、中野正剛先生の遺徳を顕彰する「中野正剛先生顕彰祭」が、「中野正剛先生顕彰会」（吉村剛太郎理事

長 山内勝二郎宮司を司祭に主催で昨年十月二十七日、福岡市中央区今川一丁目、鳥飼神社境内の中野先生銅像前で行われた。

神事があり、筑前琵琶日本旭会総師範中村旭園さんが「中野正剛」を献奏、清興では北園義有さんが剣舞を奉納した。

中野先生は、東條英機首相を批判して憲兵隊に逮捕され、釈放直後の昭和十八

玄洋社ゆかりの諸先覚を慰霊・顕彰する秋季恒例の三行事が今年も滞りなく斎行された。「先愛後樂」の三行事が今年も滞りなく斎行された。「先愛後樂」の三行事が今年も滞りなく斎行された。「先愛後樂」の三行事が今年も滞りなく斎行された。

以て興る」と題して講演をした。みなさんも、私たちも一人ひとりが国をつくるという気概を持つ」と述べた。

参集殿で直会(なおりい)に移った。参加者は中野先生の国を思う情熱などを語り合い、後世への継承の大切さを改めて感じた。

玄洋社関係の調査をして茨城大学教育学部の中野康江准教授が紹介された。野康江准教授が紹介された「皆さんの協力を」と呼びかけた。

#### 頭山満翁並びに 玄洋社物故者墓前祭

玄洋社墓地のある福岡市博多区千代四丁目の崇福寺で昨年十月七日「頭山満翁並びに玄洋社物故者墓前祭」が行われた。

主催は財団法人明道会(山崎拓理事長 自民党前副総裁)。

会場の本堂祭壇には頭山翁の座像が据えられ、厳粛な雰囲気を出していた。読経が流れる中で参列者は焼香し、頭山翁はじめ玄洋社諸先覚を慰霊した。

山崎理事長は「玄洋社は郷土福岡の精神文化の原点と考える。現代のアジアゲートウエー構想では福岡は重要な位置になっている。アジアは一つの玄洋社精神が重要な意味を持つべき」と挨拶した。



厳粛に行われた墓前祭

## 進藤喜平太の思い出・第2部 「追悼録」から

進藤喜平太翁追懐記 吉田 庚 (玄洋社第七代社長)

福岡の有志者如何で人後に落ちんや。常に文武を励み壮年の統率者として、又熱烈の士として名ありし通町(とおりちょう)生れの武部小四郎は矯志社と云うを、鳥飼の箱田六輔は堅志社と云うを創立し各社共に国事を論じたるが、明治十年に到り小異を捨て三社合同して十一學舎と呼び以て四方に臨まんとせり。

時恰も下野せし西郷南洲が止むなき軍を起すや、同情の念迸ばしり待たれし機は至れりと即應すべく、三月廿八日福岡陸軍兵營を襲撃し以て熊本に進まん方針も策全く破れて、轉戦数日之れを支えしも終に各々捕縛の運命を余儀なくさるゝに到れり。之れ即ち福岡事変と称せられしものにて、此事變の大隊長は越智、副官久光忍太郎、大隊長武部、副官古間慎吾、小隊長久世芳麿、同大島太七郎、同加藤堅武、同村上彦十、輜重部大野卯太郎、内田良五郎、使者八木和一の幾百名にて、各々罪の軽重を問われ、五月一日、久光、加藤、越智、武部の諸士は福岡榎小屋の刑場に送られ斬罪に処せられたり。越智二十六才にて、武部は三十一才なりしと云う。

斯くの如く熱烈国家を思ひし武部、越智の首領を失い寂然として青壯年も殆ど期する處なきの感ありしが、兼ねてより計画を抱きし箱田六輔、頭山満、進藤喜平太の有志は、武部、越智の烈士の遺志を重んじ、また青壯年のために質実剛健の気風を鼓舞するに勤めしが、既に長州の前原一誠が事を挙げんとするに應ず可く手筈を打合せ中、天幸運を與えず官憲の嚴搜に遭いて逮捕され十年二月福岡より山口の



焼香する参列者たち



加藤司書公並びに  
勤皇党諸烈士追悼会

乙丑の獄で刑死した福岡藩の勤皇派家老、加藤司書公と同藩勤皇党烈士の追悼会が昨年十月二十五日、司書公の菩提寺、福岡市博多区御供所町の節信院で行われ、約八十人が参列した。

司書公の肖像画が掲げられた本堂で、嘉納浩一住職を導師に法要が行われた。日本旭会会長、中村旭園師の筑前琵琶献奏のほか尺八献笛、吟詠で司書公の遺徳を讃えた。筑前維新史研究会、力武豊隆会長が講演し、史料の中から司書公の人生の知られざる一面がうかがえる場面を紹介した。中老の家格だが無役だった司書公を、主君の黒田長溥公が家老に取り立てようとしたが、現職家老たちは「大酒飲み」などと理由をつけてなかなか認めなかった。司書公が切れ者だったために敬遠されたらしい。

獄に移されたり。されど人情を解したりと言わる、関口懸令の措置を受け、偶々同志松浦愚の死去により、箱田は今回の首謀者は松浦と自分なりと自首せしより、箱田を除き頭山、進藤、奈良原至、宮川太一郎、高田芳太郎、阿部武三郎、林斧介、大倉周之助等の諸士廿七名は十年九月釋放されるに至れり。而して出獄後頭山、進藤、及び平岡の諸士は、約一ヶ月間にわたる天下の形勢を見て、悠々たるべからずと案じ、明治十年十一月迎濱（むかえばま）則ち向浜（むこうばま）塾と言うに開塾社を設け、晴耕雨讀に勉めたり。重なる社員中には藤島一造、月成勲、来島恒喜、大原義剛等あり。然れども経済上自由を欠きて閉鎖し、終に平尾山下の學塾により一同起居して相変らず晴耕雨讀を捨てず、各々数名の講師を聘して士氣を鼓舞せり。 武部、越智、頭山、進藤、奈良原等の諸士は、大抵元那珂郡人參島女儒にして女傑なりと呼べる高場乱（おさむ）先生の興志塾の門下生にて、十年西南役の際武部、越智等逮捕されし時渡邊懸令は乱（おさむ）女史も必ず関聯あらんとの嫌疑を以て女史を逮捕したるが、女史は何も知らぬとのみ抗言し続けたり。

今年、節目迎える  
記念館と先覚、物故理事長

新しい年、平成二十年は、玄洋社記念館は昭和五十年を迎える。また、福岡県 玄洋社記念館は昭和五十年十一月十六日、初代理事長・館長の故、進藤一馬が生んだ唯一人の総理大臣 廣田弘毅先生および玄洋社 市長）によって創設された。記念館物故歴代理事長の忌 進藤先生が記念館を創設祭も節目の年に当たる。 した目的は、諸先覚の遺徳



創設30周年を迎える玄洋社記念館の展示室。所蔵資料は3千点を超え、郷土史愛好家や大学の研究者らの来訪も多い

の継承と玄洋社の正しい姿を後世に伝えることだった。所蔵資料は頭山満、進藤喜平太はじめ玄洋社先覚の書、条幅、写真など三千点を超える。全国におよぶ賛助会員の理解と協力によって運営されている。 廣田弘毅先生（玄洋社社員）は明治十一年二月十四日の生まれ。極東軍事裁判で死刑判決を受け、執行されたのが昭和二十三年十二月二十三日だった。 生誕百三十年、没後六十年に当たる。 歴代理事長では、進藤一馬先生（平成四年十一月二十八日逝去）が十七回忌、第二代理事長の妹尾憲介先生（同八年十月十六日逝去）が十三回忌、第三代理事長の久保田秀己先生（同十八年九月五日逝去）が三回忌を迎える。

宗家継承10周年  
長岡さんが記念演武会



模範演武をする長岡さん(左)と母里忠一師範

筑前黒田 中央区大濠一丁目の福岡武道館で宗家継承十周年記念の演武大会を開いた。 「柳生新影流」を継承する第十四代宗家長岡鎮廣さん（57）が、小野派一刀流剣術、薩摩鎮廣さんに伝わる自顕流などもそれぞれ披露し、さながら古武術の祭典のようである。来場者は感動の面持ちだった。筑前琵琶日本旭会会長、中村旭園さんの演奏や、日本舞踊もあり、大会に彩りを添えた。 長岡さんは、毎年五月に開催される「廣田弘毅先生顕彰祭」で、第十三代宗家、故浦池鎮浪師とともに、これまでしばしば演武を奉納している。

掛り役人は、其方は多数子弟を養成し其門下生中叛乱の徒を出したるは不取締りの役、其罪死刑に相當す、と叱責しが、女史は冷然拙者の門下より乱徒を出したるが故に死刑に相當すと言は、其處刑に服さんが、御尋ねし度き儀は、懸令の治下に乱徒を出したるは懸令が日頃懸令に對し不行届の段は正に其罪自分と同様なり。故に處刑を甘受して此白髮首と懸令の首と共に梟首して、陛下に其罪を御託び申す可し、と言いつつ。其聲法廷を押し判事は二の句をつけず後遂に無罪放免したと言ふ。 明治廿四年三月、女史は病歿されたが女傑の評あるも亦宜なる哉。 (続く)



# 「杉山龍丸のルーツに会いたい」

## 福岡アジア文化賞受賞者

### アシシュ・ナンディさん来館

# 玄洋社の活動に感銘

## 茂丸の曾孫 満丸さんが案内

平成十九年度の「福岡アジア文化賞・大賞」を受賞したインドの社会・文明評論家、アシシュ・ナンディさん(70)が、昨年九月十六日、授賞式出席のため来福したのを機会に玄洋社記念館を訪れた。「杉山龍丸のルーツに会う」ための来館だったが、アジアの独立を支援した玄洋社の活動を知って、深い感銘を受けた様子だった。

杉山龍丸(大正八―昭和六十二年)は作家、夢野久作(本名、杉山泰道)の長男で、政財界の黒幕といわれ、アジアの独立運動も支援した玄洋社社員、杉山茂丸の孫に当たる。戦前は陸軍の航空機整備将校。戦後、プラスチック関係の事業をおこす。知人の依頼でインドの留学生の世話をし、その縁でインドに招かれる。数度、インドを訪れるうちに一九七二年(昭和四十七年)の干ばつによる農村の惨状に出会う。龍丸はインドの緑化事業に取り組み。私財をなげうって砂漠にも育つユーカリの植樹を実行し成功。インドの人々からは「緑の父(グリーン・ファザー)」と慕われている。

展示室に入ったナンディさんらは、特に龍丸の祖父、杉山茂丸翁や、頭山翁と写ったインドの独立運動家、ラス・ビハリ・ボース、インドの詩聖、ラビンドラナート・タゴールの写真に長時間見入っていた。

玄洋社は、インド総督爆殺未遂事件で日本に逃亡し、国外退去命令で官憲に追われるボースを杉山茂丸が提供した逃走用の外車で救出するなどの支援をしている。

見学を終えたナンディさんは「玄洋社の名は知らなかったが、日本でボースを支援したグループがいることは知っていた。インドだけでなく中国、台湾を支援した玄洋社のことを知ることができて興味深かった。機会があれば知り合いを連れて来たい」と感想を述べていた。

事業を手伝っていた。インドで「グリーン・ファザー」が話題になったことから、トリベリさんが、日本に戻っていた石黒教授に「グリーン・ファザー」の家族を捜してほしいと依頼。石黒教授はインターネッで満丸さんを捜し出した。平成十四年六月、福岡市の福岡ドーム(現、ヤフードーム)で開催された二足

歩行のロボットによるサッカー世界大会「ロボカップ2002福岡・釜山」に石黒教授のチームが出場。その際に石黒教授と満丸さんは直接の対面をした。

アジア文化賞に伴うナンディさんの来福が決まり、満丸さんは杉山家ゆかりの場所として玄洋社記念館を選び案内した。「福岡アジア文化賞」は、

福岡市の主催でアジアの文化の保存と創造に貢献した個人、団体に贈られる賞。十八回目の昨年は、ナンディさんら四人に贈られた。最高賞の「大賞」を受けたナンディさんは、非暴力主義の信念に基づいて政治問題、民族紛争を分析し、人類の共存について提言し続けてきた活動が評価された。

### 日中近代史テーマに取材

### 譚璐美さんが来館

中国現代史の分野などで活発な著述活動をする譚璐美(たん・ろみ)さんが、昨年十月二十六日、新潮社「新潮新書」の三重博一編集長ら編集スタッフとともに玄洋社記念館を訪れた。譚さんの父、譚寛真さん(一九〇九―二〇〇一)は、戦時中、南京国民政府駐日大使館部長などを務めた外交官で、終戦後も日本に住み日中間問題研究に専念した

人。玄洋社記念館の創設者、故進藤一馬先生と親交があり、東京では進藤先生主宰の青年の勉強会「励志会」と交流。昭和五十六年には「福岡励志会」の招きで来福、講演会が開かれている。璐美さんの、この日の来館の目的は、これから取り組む日中近代史をテーマに

した著作活動のための取材。展示室を熱心に見学し、孫文に関する書状類を書き写すなどしていた。

記念館が保存している寛真さんの講演テープを聴いて「父の緊張した声ですね」とほほえんでいた。

三重編集長らは、記念館の資料は「すごい」の一語に尽きる、といい「玄洋社の再認識、再評価が必要」と感想を述べていた。



展示室で満丸さん(右端)の説明を聞く(左へ)トリベリさん、ウマ・アシシュ夫人、ナンディさん、通訳

ナンディさんは夫人のウマ・アシシュ・ナンディさん(70)、甥の米カリフォルニア大学教授、モーハン・トリベリさん(54)を同行して来館した。案内したのは龍丸の長男の九州産業大学付属九州産業高校教諭、杉山満丸さん(51) 筑紫野市武藏。

ナンディさんと玄洋社記念館の橋渡し役を果たしたのは、大阪大学大学院工学研究科のロボット工学者、石黒浩教授(44)。

石黒教授がカリフォルニア大学に留学中の共同研究者がトリベリさんだった。トリベリさんは、まだインドにいるころ、龍丸の植樹



来館した譚璐美さん



### 岳風会副理事長が来館

岳風会副理事長が来館した。このほど完成した「岳風会七十年史」と頭山満丸翁の結婚写真①を寄贈された。



### 玄界島・勤皇2烈士の墓

## 仮設住まいでも供養続ける

### 地震被災の上田勇さん



上田勇さん＝仮設住宅の前で

十日の福岡県西方沖地震で壊滅的な被害を受けた。島の納骨堂敷地内には、藩論を尊皇に導こうと奔走し、斬首された福岡藩士、堀六郎と齋田要七の墓がある。

島の戦没者遺族会世話人、上田勇さん(64)は、地震で家を破壊され、緊急避難場所の福岡市九電記念

体育館を経て、現在は同市中央区港二丁目の福岡船舶「かもめ広場」に設置された島の被災者のための仮設住宅に住んでいる。

被災からこの二年半の間も、上田さんは二人の烈士の墓の供養を欠かさなかった。春、秋の彼岸と盆、正月に、上田さんは花と線香を携えて仮設住宅から島に渡り二烈士の墓に供えた。妻道子さん(64)も同行して、墓の周辺を掃除することもあった。

二烈士の供養は、玄洋社記念館の創設者、進藤一馬先生と先生主宰の「勵志会」を中心として昭和三十三年から進藤先生が亡くなる二年前の平成二年まで行われた。

その後は、上田さんが、納骨堂の戦没者忠霊塔で遺族と慰霊祭をする際に、自主的に二烈士の供養もしている。

上田さんは平成十六年まで、一時中断しているが、上田さんは個人で二烈士の供養を続けた。

上田さんは平成十六年まで、市営渡船・玄界航路の船長を務めた。道子さんの父、浜田亀七さんは進藤先生の熱心な支援者だった。

今年三月には、島に完成する市営住宅に入居する予定。「島に戻ったら供養も本格的にしなければ」と上田さん。

昨年十月三十日、地震被害の復興状況視察で福岡市を訪問された天皇、皇后両陛下は「かもめ広場」にもおいでになった。両陛下は、お出迎えした上田さんにも「大変でしたね」とねぎらいの言葉をかけになった。

両陛下のお心遣いに、上田さんは感動したという。

## 賛助会員芳名録

19年11月4日現在

(敬称略)


- ▼法人の部
  - 〔三万円〕 株式会社 牧 昭三 (福岡市)
  - 株式会社 田北 利藏 (福岡市)
  - 平野神社 (福岡市)
  - 川辺 俊幸 (福岡市)
  - バイオテック(株) (同)
  - 矢島 隆夫 (川越市)
  - ▼個人の部
    - 〔三万円〕 堀 憲一 (福岡市)
    - 田中 久也 (福岡市)
    - 別府 正寛 (太宰府市)
    - 平賀 忠彦 (猪名川町)
    - 高木 博晴 (福岡市)
    - 池田 一夫 (福岡市)
    - 土肥 國夫 (同)
    - 久保 康憲 (彦根市)
    - 矢野庄一郎 (横浜市)
    - 小林 直貴 (同)



地震の被害は免れた2烈士の墓。壊れたブロック塀のあとに木製のフェンスが新調された

# 新年 謹賀

## 平成20年 元旦



HARADOI HOSPITAL


特定医療法人

### 原土井病院

理事長 原 寛

〒813-8588  
福岡市東区青葉6丁目40番8号  
☎092-691-3881(代)  
http://www.haradoin-hospital.com/

(財)日本医療機能評価機構認定



別府梢風園

代表取締役社長 別府 壽信

本社 〒813-0265 福岡市東区青葉一丁目六・五三  
TEL 092-2691-1067  
FAX 092-2691-1454  
Email: info@shoufuen.co.jp


造園・緑化 自然とコミュニケーション

株式会社 オー・エー企画

代表取締役 入江 秀雄

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2丁目1-82  
TEL (092) 7111-8288  
FAX (092) 7111-8288

AKIRA Oh, Fresh! Sea foods.



株式会社 アキラ水産

代表取締役社長 安部 泰宏

本社 福岡市中央区長浜3丁目11-13-111  
電話 092-71711-6601(代表)  
関連会社/株式会社コウトク水産

建設コンサルタンツ  
建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理

ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社

代表取締役 花田 三郎 勲

代表取締役 尾 三郎 勲

本社 福岡市博多区東比恵三丁目二四-19  
〒812-0007 電話 (092) 4811-3100  
東京支社 東京都杉並区高円寺南一-123-10  
〒166-0003 電話 (03) 537815800  
営業所 千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎

福岡鮮魚市場のコア企業!! 21世紀の水産業界を領導するアキラグループ

◆鮮魚卸卸業◆



# 来館者の声

玄洋社記念館に来館された方々の感想文の一部です。要約して掲載しています。

**(福岡県太宰府市・学習塾職員・35歳・男性)**  
新聞の特集や本で玄洋社について知り、地元で長年住みながら全くその存在について知らなかったことに驚くと同時に、その果たした役割の大きさや社風、一人ひとりの人柄に畏敬の念を覚えました。彼等先人たちが同郷の方々であることを誇りに思います。

を知り、図書館の本を見て、記念館に来ました。貴重な資料を見ることができてよかったです。  
**(福岡市・19歳・予備校生・男性)**

こんなに美しく人生を送った人たちがいた日本を誇りに思い、それに負けないよう一生懸命生きていきたいです。  
**(愛知県常滑市・33歳・中学教諭・男性)**

日本が日本でなくなるのではないかと思うほど揺れ動いているさなか、また、真のアジアとの友好が望まれているとき、玄洋社の人々の意志と行動に接して大変、勇気づけられました。  
**(東京都・45歳・男性)**

戦後六十余年を経て、今の日本の状況を憂えておられることかと思えます。地元で教壇に立つ者の一人として、彼等の業績を少しでも後世に伝えていく役割を担えればと思いました。

資料だけでは分からない裏側の話も聞くことができ、大変興味深く、かつ深く玄洋社について理解することができました。

近代日本が発展する過程において、玄洋社の果たした役割は多大なものだったと思います。  
自分も及ばずながら精神を受け継ぎ、自らを律し、身を殺して仁を成したいと思えます。  
**(大阪市・技術者・35歳・男性)**

玄洋社の男たちの雰囲気は伝わってきました。「一人でいても寂しくない男」でいたいと思いました。

今、こうして感想を書いているだけで不思議と心が落ち着きます。次は友達を連れて訪ねたいと思います。

今、自分が置かれている立場で、どれだけ情熱を注げるか、それを写真の人たちから問われているような気分でした。

感動を表現する言葉が見つかりません。玄洋社に集う人々の生命力と意志の強さを感じました。  
**(京都市・21歳・大学生・女性)**

例祭のとき記念館のことを聞き及び、本日、初めて

**(福岡県春日市・教員・38歳・男性)**

以前、冊子にあった玄洋社の特集を読み、玄洋社記念館に一度、足を運びたいと思っておりました。

玄洋社社員の方々の熱い志を感じることができました。また機会があれば見学させていただきます。  
**(福岡県太宰府市・33歳・造園業従業員)**



先覚の写真が来館者を迎える玄洋社記念館の展示室

## 先覚の参道寄付記念碑 初詣での折にご覧ください



ある櫛田神社駐車場に、道路に面して三先覚を顕彰する高さ約一・五メートルの記念碑がある。氏子代表など参道建設の世話人二十四人が建てた。記された道路建設の経緯の中に、三先覚への感謝の気持ちがいじみ出ている。

博多の総鎮守として市民に親しまれる福岡市博多区上川端町の櫛田神社は、日本三大祇園祭の一つ「博多祇園山笠」が奉納される神社として全国に知られる。櫛田前から博多のメインストリート「大博通り」までの表参道約二百メートルは、明治三十五年ごろ、玄洋社社員、平岡浩太郎、大野仁平、児島哲太郎の三先覚の寄付によって完成した。

地元の人々が参道建設に取り組んだが、櫛田まで約二百メートルを残したところで土地の買収資金に窮し頓挫した。三先覚は窮状を知り、足りない資金の全額を寄付した。

櫛田神社は福岡の三社参りでは欠かせない神社の一つ。初詣でのついでに、碑文を読んで先覚の器の大きさに接してみても如何。

（写真は三先覚を顕彰する記念碑）  
お知らせ 連載「玄洋社関係史料の紹介」は都合により休載します。